



Title	後記
Author(s)	中野, 悦子
Relation	RA協議会第6回年次大会F-1セッション / 第8回JINSHA 情報共有会 報告書 : 異分野融合研究・プロジェクトにおけるURAの役割について考える
Issue Date	2022-04-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/87095
Type	other
File Information	8_RA6_F1_Nakano2.pdf



後記

この報告書は、2020年9月に開催されたRA協議会第6回年次大会のF-1セッション「異分野融合研究プロジェクトにおけるURAの役割について考える」をまとめたものです。このセッションは、神戸大学URAの平田充宏さんが第6回年次大会の実行委員としてテーマ「文理融合研究」のご担当でいらしゃったところ、平田さんから幸運にも私にセッション担当者のオファーをいただいたことから実現しました。人社系をテーマにしたセッションということで、人文・社会科学系URAネットワーク幹事校との共同実施として、第8回JINSHA情報共有会になりました。平田さんにはこのような機会を与えてくださったこと、そして一緒にセッション運営に取り組んでくださったことに改めてお礼を申し上げます。また大阪大学・川人よし恵さんをはじめ人社系URAネットワーク幹事校の皆様には様々な形でご協力いただきました。

開催からすでに1年半経っているにもかかわらず報告書として記録を残したいと思ったのは、最近の「総合知」をめぐる議論にあります。「総合知」という言葉は、2021年4月に施行された科学技術・イノベーション基本法の「あらゆる分野の科学技術に関する知見を総合的に活用して」というところに端を発しているようですが、その内容や定義については、現在議論が続けられているところです。ただ、気候変動やカーボンニュートラル、パンデミック・リスクなど地球規模の課題解決のために、多様なステークホルダーが多様な知を結集して取り組むための概念であるという点は共通認識ではないかと考えています。本セッションは「総合知」についての議論がまだそれほど盛んではなかった頃に行われましたが、当時のテーマ設定やそれぞれのご登壇者の発表内容やコメントは、今の状況にもつながる点が多いと考えています。

またこの1年半で人社系が果たす役割についての認識や議論、取り組み事例も展開されており、この間の議論や取り組みの積み重ねを実感するきっかけにもなるとも考えています。特にELSI問題、学際研究や人社系研究の研究評価については、最近さらに注目が高まっているように感じます。セッション後に

行われたオンライン情報交換会では、登壇者の方々にもご参加いただき、直接お話を聞く機会を持っていましたが、その時の話題の中心が設立されたばかりの大阪大学 ELSI センターとなっていたのは、今から思うと必然性があったように思います。実際に、この1年半の間にいくつかの大学で ELSI に関連するセンターが設立されています。また研究評価については、例えば今年1月末に行われた文科省「科学技術・学術審議会学術分科会 人文学・社会科学特別委員会（第9回）（2022年1月28日）」でも、「総合知」の議論と人社系研究の評価指標の問題とが区別して議論されるべきであるとの指摘がなされており*¹、まさに本セッションでの問題提起との重なりを感じています。

「総合知」や人社系研究をめぐる課題についての議論は今後さらに深まっていくことが期待されますが、私たち URA の重要な役割のひとつは、異分野融合プロジェクトに関わるべき研究分野の研究者が、その形成プロセスの初めから主体的に参画し関わっていけるよう、つないでいくことではないかと考えています。この報告書が、当時の記録としてはもちろん、新しいひらめきやネットワークの契機となれば大変うれしく思います。

最後に、人文・社会科学系研究推進フォーラム、通称「人社フォーラム」についてです。このフォーラムは、人文・社会科学系の研究にかかわる研究者や URA、事務系職員、行政機関、資金配分機関の関係者等が、よりよい研究推進のあり方をともに議論し、ともに行動することを目指して、大阪大学、京都大学、筑波大学により2014年に発足しました。フォーラム等の企画・運営は、人文・社会科学系 URA ネットワーク幹事校の URA たちによって行われています。北海道大学は、2019年に参画し、2020年10月に主催校として、第6回人社フォーラム「人社主導の学際研究プロジェクト創出を目指して」を開催いたしました。人社系 URA ネットワーク幹事校は現在13校となり、これからも人社系 URA のネットワークを広げながら、人社系分野全体の振興にも寄与することを目指しています。このネットワークがさらに広がっていくよう、これからも取り組んで行ければと思います。

2022年2月16日

北海道大学 大学力強化推進本部 研究推進ハブ URA ステーション
セッション担当 中野 悦子

*¹ 林隆之「人文・社会科学における研究評価の課題」文部科学省 科学技術・学術審議会
学術分科会 人文学・社会科学特別委員会（第9回）、資料2-1（2022年1月28日）。